



# 広報こうりょう男女共同参画啓発記事一覧 (H30.10月号まで)

▶ H30.4号



## りべる Vol. 1 ～男女共同参画だより～

問 企画調整課 ☎ (55) 1001



▲ いぬちゃん



▲ ねこちゃん



▲ フクロウ先生

こんなことはありませんか？



ぼくの通っている保育園の先生が優しく、僕も保育園の先生になりたいんだ。

でも保育園の先生は女の人がなる職業じゃないの？



そうかなあ？男だからできないってことはないよ。ねこちゃんは将来何になりたいの？

消防士さんになりたかったんだけど、女の子だからできないんじゃないかな…



「男だから」「女だから」って自分で決めつけないでチャレンジしてみようよ！

そうだね！チャレンジする勇気が湧いてきたよ！



男や女といった性別に関係なく、みんなにチャンスがあって、何にでもチャレンジできるんだよ。これが「男女共同参画社会」なのです。

悩みを一人で抱え込まないで

日常生活の中で、「男だから、女だから」と「当たり前」と思われていることに疑問を感じたら、「男女共同参画」について少しだけ考えてみませんか？

男女共同参画社会とは、「男女がお互いを尊重し合い、職場、学校、家庭、地域などの社会のあらゆる分野で、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮し、喜びや責任を分かち合うことができる社会」です。誰のものでもない、あなたの大切な人生のために、「あなたらしさ」を見つける小さな一歩を踏み出してみませんか？

▶ H30.5号



## りべる Vol. 2 ～男女共同参画だより～

問 企画政策課 ☎ (55) 1001

町では、男女の人権が尊重される安心安全な暮らしの実現を目指し、平成30年3月に「男女共同参画行動計画」を策定しました。

今なお社会には、男女間の暴力が存在しています。暴力は、それぞれの人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していくうえで克服すべき重要な課題であることから、新たに家庭内暴力電話相談窓口を設置しました。

ひとりで悩まず、まずはご相談ください。

家庭内暴力(DV) 電話相談窓口

【相談窓口】 企画政策課 (役場2階)

☎ (55) 1001

女性に対する暴力根絶のシンボル



◀ パープルリボン

「パープルリボン運動」は、1994年にアメリカで、性的暴力の被害に遭った方により始められた運動と言われています。紫色のリボンを着用することで、「女性に対するあらゆる暴力をなくしていこう」、「被害者に勇気を与えよう」というメッセージが込められています。

# KORYO 6

広報こうりょう

2018.JUNE  
No.765

**「走り出せ、  
性別のハードルを越えて、今。」**

平成30年度「男女共同参画週間」キャッチフレーズ

**特集**

## 広陵町男女共同参画座談会

P 4 中央公民館夏休み子どもウィーク開催！！

P 6 大和鉄道開通 100 周年イベント情報

P10 チャレンジ！農業 農業塾第5期生募集

【表紙】 男性も女性も共に生きやすい広陵町を目指すため、現在育児に奮闘中のお母さんや親子で参加できるイベントを企画している熱き料理人、そしてこれから社会へはばたく畿央大学の学生の方々にお集まりいただき、広陵町の未来について語り合いました。

広陵町  
×  
男女共同



大学生  
×  
社会人

男性、女性が共に生きやすい社会を目指す。

# Liberal

## —— 広陵町男女共同参画座談会 ——



**Profile**  
居附 諒さん  
畿央大学 教育学部  
現代教育学科学校教育コース



**Profile**  
安元 風歌さん  
畿央大学 教育学部  
現代教育学科学校教育コース



**Profile**  
井上 友美さん  
社会人女性代表  
育児休業取得中のお母さん



**Profile**  
池田 領助さん  
社会人男性代表  
飲食店のオーナーシェフ

今回、さまざまな視点からの問題にアプローチしていくために、社会人および学生の方による座談会を開催し、普段感じる問題や将来感じるであろう課題を話し合っていたいただきました。

町では、男女が社会の対等な構成員としてそれぞれの個性や能力を発揮し、社会のさまざまな場面で活躍することができる社会を実現するため、平成30年3月に「広陵町男女共同参画行動計画」を策定しました（DV被害者支援や女性活躍推進も盛り込んでいます）。

### —— 広陵町の取り組み ——

女性だから、男性だから。そんな生きづらさを感じる昨今。だからこそ男女共同参画週間である6月にもう一度お互いのことを考えて、そしてお互いの顔を見て、感謝の気持ちを伝えてみてはどうでしょうか。「いつもありがとうございます。」そこから始めることが本当の一步ではないでしょうか。

◀町では、男女共同参画に配慮して多くの書類の性別の記載欄を見直し、必要のないものは、順次なくしています。

# 1

## 目指す社会 そこに直面する多くの課題



民間でもサポートをしていたり、考えているところがあるんですよ。



- 座談会中に出た今後の課題**
- ①仕事と育児の両立に対して周囲の「理解」を浸透させる方法
  - ②行政の民間への協力体制を強化する方法
- 2点の課題が浮き彫りになりました。それでは、その課題を解決するためには、どうしたらよいのかを 2 で話し合いました！

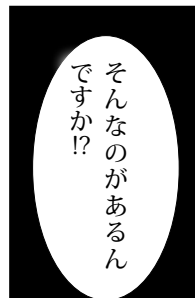
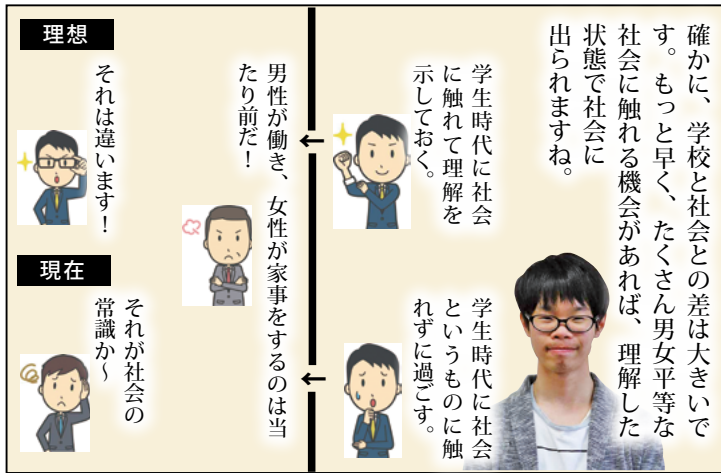


# 2

## 「理解」の浸透・民間支援の強化 その課題に対する解決策とは



社会に触れるという点では、私も子育て世代を対象にしたイベントなどをやってみたいと思います！



# りべる Vol. 3 LGBT（性的少数者）を知ろう

～男女共同参画だより～

## 問 企画政策課 ☎ (55) 1001

LGBTとは、Lがレズビアン（Lesbian：女性の同性愛者）、Gがゲイ（Gay：男性の同性愛者）、Bがバイセクシュアル（Bisexual：両性愛者）、Tがトランスジェンダー（Transgender：こころの性からだの性との不一致）の頭文字から作られた言葉であり、性的少数者の総称として用いられています。



LGBTと呼ばれる人たちは、日本における人口の7.6%くらいですが、こういった方は、こういった困難を抱えていると思いますか？



「男のくせに」「女らしくない」「気持ち悪い」などとひどい言葉を投げかけられ、深く傷つけられるとかかな…

就職活動の際、結婚などの話題から性的指向や性自認をカミングアウトしたところ、面接を打ち切られたという話を聞いたことがあります。



また医療面では、受付で戸籍上の名前と呼ばれて、受診しづらくなったって言う人がいるらしいよ。



そういった話を聞くと、本当に胸が痛みますね…みんなの人権が守られる社会にしていけないといけませんね。

町では、全ての人が輝き、いきいきと暮らせる男女共同参画社会の実現を目指し、「誰もが多様な選択肢から自らが自らの道を選択でき、活躍できる社会」を基本理念に掲げ、今後も男女の人権が尊重されるようなまちづくりの実現に向け取り組んでいきます。

LGBTの方の人権を尊重し、正しい知識を学ぶことが大切です。

まずは知ること、こういう方もいらっしやることを理解し、みんなが住みよいまちにしていましょ。



# りべる Vol. 4 デートDVってなに？

～男女共同参画だより～

## 問 企画政策課 ☎ (55) 1001

### デートDVとは

交際相手からの暴力被害のことをいいます。暴力といっても殴ったり、蹴ったりするなどの身体的な暴力だけでなく、精神的、経済的、性的な暴力も含まれています。女性も男性も誰もがデートDVの加害者や被害者になる可能性があります。

### デートDVの例

- ・ 交際相手に「他の異性と会話をするな」などと命令
- ・ 携帯電話の着信履歴やメールのチェック
- ・ いつもおごらせる
- ・ 性行為を強要する



### デートDV防止のための理想の関係

- ・ 意見が違ったとき、互いの意見を伝え合い、相談できる関係
- ・ 自分や相手のプライベートな時間も大切にできる関係
- ・ 嫌なことは、「NO」と言える関係
- ・ お互い「上下」「主従」のない対等な関係



気づかぬうちにデートDVを受けていたり、相手を傷つけている可能性があります。お互いの立場を尊重し、対等な関係を築き、大切なパートナーとなれるよう、二人の関係を見直してみましょ。



# りべる Vol. 5

～男女共同参画だより～

世界から見る日本の「男女格差」を知ろう  
～ジェンダーギャップ～

## 問 企画政策課 ☎ (55) 1001

「男女格差」を指数で表した「ジェンダーギャップ指数」は男女平等の指標としてよく用いられます。各国の男女格差をこの指数に表すことにより、男女格差があまり無い国、残っている国を知ることができます。

2017年に世界経済フォーラムが発表した各国のジェンダーギャップ指数ランキングでは、日本の順位は、144か国中114位という結果になっています。

このことから、日本は世界的に見て、まだまだ男女平等の度合いが低いということがわかります。

ジェンダーギャップをなくすために、私たちが普段思いがちな「男性だから、女性だから」という意識を少しでも変えてみるどころから始めませんか。

順位	国名	値
1	アイスランド	0.878
2	ノルウェー	0.830
3	フィンランド	0.823
49	アメリカ	0.718
71	ロシア	0.696
82	イタリア	0.692
100	中国	0.674
114	日本	0.657
118	韓国	0.650

北欧諸国がランキングの上位を占めています。

世界において、男女平等という観点から見ると日本はまだまだ発展段階です。

「ジェンダーギャップ指数(2017)」(内閣府ホームページより抜粋)



# りべる Vol. 6

～男女共同参画だより～

「イクメン」をめざしましょう！

## 問 企画政策課 ☎ (55) 1001

世間では、子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のことを「イクメン」と呼び、耳にする機会が多くなってきましたが、まだまだ一般的となっていないのが現状です。「家事は女性がするもの」という考えがいまだに深く根付いていると言えます。

厚生労働省が発表した「平成29年度雇用均等基本調査」によると、2017年度の育児休業を取得した男性の比率はわずか5.14%でした。前年度に比べると1.98ポイント上昇してはいるものの、まだまだ低い状態です。女性の取得率は83.2%となっており、前年度に比べると1.40ポイント上昇しています。

厚生労働省の目標として、2020年度までに男性の育児休業取得率を13%とすることを掲げています。

およそ40年というキャリア人生において、育児休業が取れる期間はわずかです。育児休業が「とれない」とあきらめずに「とってみようかな」ということから始めませんか。

